

東京都立羽村高等学校 令和3年度 年間授業計画

教科: 国語

科目: 国語総合

単位数: 4 単位

対象学年組: 第1学年 1組～8組

教科担当者: (1・2・5・6組: 日野林琴乃・最上仁志・神田恭子・小林昌平・小林奈津子) (3・4・7・8組: 日野林琴乃・最上仁志・神田恭子・重田裕子・小林昌平・小林奈津子)

使用教科書: 標準国語総合(第一学習社)

使用教材: カラー版国語便覧(第一学習社)・常用漢字ダブルクリア(尚文出版)

	指導内容	国語総合の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当時数
4月	現代文分野 ・ガイダンス ・国語常識 ・随想「スイッチをOFFにすることから始める」	「スイッチをOFFにすることから始める」 ・文章の構成、展開に注目し、筆者の考えを把握する。 ・指示語や接続語などの働きを意識させる。 ・比喩表現を正確に理解し、豊かな文章表現に触れさせる。 ・随想のすぐれた文章表現(展開の上手さ、具体例の配置の巧みさ)を味あわせる。	提出物 漢字テスト 定期考査	12
5月	古典表現分野 ・ガイダンス ・古文入門 ・古文を読むために(歴史的仮名遣い) ・児のそら寝(『宇治拾遺物語』)	「古文入門」 ・古文と現代文の違いを学ぶことで、古文の特徴を知る。 ・古典の世界が、現代の生活や文化の中に受け継がれていることを知る。 「古文を読むために」 ・現代仮名遣いと歴史的仮名遣いの違いを意識する。 「児のそら寝」 ・やさしい文章に触れ、古文に親しませる。 ・歴史的仮名遣いを理解する。 ・説話の面白さを味わうことで、それらの話を伝えた古人の思いを考えさせる。		12
6月	現代文分野 ・小説「卒業ホームラン」 ・評論「水の東西」	「卒業ホームラン」 ・登場人物同士の関係を理解しながら読む。 ・登場人物の心情を、記述を基に理解する。 「水の東西」 ・二項対立の文章構造を理解し、筆者の主張を適切に捉えられるようになる。 ・物事の見方、考え方が、国や地域、言葉の違いによって左右されることを理解し、自らの視野を広げていく。		16
7月	古典表現分野 ・「なよ竹のかぐや姫」(『竹取物語』) ・品詞・活用形	「なよ竹のかぐや姫」 ・登場人物の関係、主人公の人物設定を理解させる。 ・平安時代の風俗や習慣について理解させる。 品詞・活用形 ・今後の文法学習の基礎となる品詞と活用形についての考え方を理解させ、品詞名・活用形名を覚えさせる。		8
9月	現代文分野 評論「人はなぜ仕事をするのか」 詩「I was born」	「人はなぜ仕事をするのか」 ・価値観はどのように作り上げられているのかを、本文を通して考えることで、他者の価値観や考え方に対する理解力を養う。 ・一般論と筆者の主張の対比を意識させ、筆者の主張を的確にとらえさせる。 「I was born」 ・定型詩、散文詩になじませ、各連におけるリズムや構成の類似性を感じさせる。 ・視覚的、聴覚的な表現の工夫について理解させる。		12
10月	古典表現分野 「絵仏師良秀」(『宇治拾遺物語』) 「門出」(『土佐日記』) 動詞の正格活用	「絵仏師良秀」 ・良秀の人物像を理解させ、また現代にまで引き継がれる古典文学の魅力を体験させる。 「門出」 ・女性に仮託して記しているという文学的特徴を理解する。 動詞の正格活用 正格活用について、活用表を見ながら文法問題を解けるようにする。		16
11月	現代文分野 小説「羅生門」	「羅生門」 ・登場人物の心理を押さえていくことで、小説の面白さを感じさせる。 ・巧みな比喩表現や情景描写などの効果的な使い方を学ばせる。 ・作品の主題を自分自身の視点で考察させる。 ・「人間とは何か」「真の善悪の価値観」への考えを深めさせる。		16
12月	古典表現分野 「筒井筒」(『伊勢物語』) 動詞の変格活用	「筒井筒」 ・「歌物語」特徴を理解させる。 ・『伊勢物語』の持つ「みやび」の精神が平安時代の文学を支えるものであったことに触れ、古文の世界に対する理解を深めさせる。 ・「男」の心の動きを読み取らせて、物語を楽しんで読ませる。 ・和歌の修辞技巧(枕詞、掛詞等)について理解させる。 ・古典文法に対する理解を深める。 動詞の変格活用 変格活用について、活用表を見ながら文法問題を解けるようにする。		8
1月	現代文分野 評論「コミュニケーションは創造的に」 小説「夢十夜」	「コミュニケーションは創造的に」 ・具体例とそれに基づく筆者の主張の対応関係を理解させる。 ・自らの普段のコミュニケーションについて改めて考える機会を持たせる。 「夢十夜」 ・表現の工夫を読み解きながら、筆者の夢の内容を本文に沿って理解し、夢の意味するところを根拠をもって想像する。		12
2月	古典表現分野 『徒然草』 動詞の総復習 形容詞・形容動詞	「徒然草」 ・古典に記されている教訓が現代にも通じることを理解し、人間の営みの普遍性を感じさせる。 動詞の総復習 ・正格活用・変格活用を定着させ、活用表がなくても文法問題を解けるようにする。 形容詞・形容動詞 ・形容詞・形容動詞のはたらきや活用を理解し、終止形の状態で品詞の判別をできるようにする。		16
3月	言語活動	・文章を読み、内容的に正確に捉えさせる。 ・決められた字数で文章の要点をまとめられるようにさせる。 ・「大意」と「要旨」について、それぞれのまとめ方の違いを理解させる。		12
				140